

# 第1日目 6月2日(土) A会場 工学部 IB館 011号室

## 8:30 発表登録受付

9:00 9:20	A-1	ヨフのレプーの政治組織とSaltigeのタイトル	盛 恵子	名古屋大学大学院文学研究科 博士課程後期
9:25 9:45	A-2	セネガル、レプーの漁村ヨフの七街区の起源伝承をめぐって	盛 弘仁	名古屋大学大学院文学研究科 比較人文学講座
9:50 10:10	A-3	ブルキナファソ女性の「エンパワメント」—農村女性組織の活動を事例として—	浅野 史代	名古屋大学大学院/日本学術 振興会
10:15 10:35	A-4	知識資源としての手話—エンパワメントの言語人類学に向けて—	亀井 伸孝	関西学院大学社会学研究科
10:40 11:00	A-5	無形資本としての技術・知識—マダガスカル漁村の事例—	飯田 卓	国立民族学博物館
11:05 11:25	A-6	土器をつくる身体—エチオピア西南部アリ女性職人を事例として—	金子 守恵	日本学術振興会/京都大学大 学院アジア・アフリカ地域研究 研究科
11:30 11:50	A-7	アフリカ在来知の生成とそのポジティブな実践に関する地域研究	重田 眞義	京都大学大学院アジア・アフリ カ地域研究研究科
11:55 12:15	A-8	「シングル」の人類学にむけて	椎野 若菜	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所

## 12:15—13:00 昼食

13:00 13:20	A-9	アフリカ「周辺」都市のラスタが捉える「伝統」と「アフリカ」—ブルキナファソ、ワガドゥグのラスタの事例から—	清水 貴夫	名古屋大学大学院文学研究科
13:25 13:45	A-10	マス・メディアから見る民主化移行とそのゆくえ—西アフリカ・ベナンの政治情勢から—	田中 正隆	高千穂大学人間科学部
13:50 14:10	A-11	写真<ハゲワシと少女>の最も近くにいた日本人—日本の教育現場でアフリカの飢餓・内戦を考える実践的研究—	縄田 浩志	鳥取大学乾燥地研究センター
14:15 14:35	A-12	文化遺産としての少数民族の伝統音楽—エチオピア、ハラールの事例—	TARSITANI, Simone	京都大学ASAFAS JSPS外国人特別研究員
14:40 15:00	A-13	ンカンベ首長制社会における木製仮面と網状仮面—カメルーン・グラスランドの仮面文化理解のために—	後藤 澄子	名古屋大学大学院
15:05 15:25	A-14	カメルーン南部 Mbirí 儀礼の一考察—解釈されていく儀礼	神谷 良法	名古屋大学大学院文学研究科 /日本学術振興会特別研究員
15:30 15:50	A-15	ウガンダにおける新ペンテコステ・カリスマ派の興隆—「文化は悪魔」; イテソ民族の事例から—	長島 信弘	中部大学国際関係学部
15:55 16:15	A-16	社会関係の再定義の場としての土地争議—土地所有を正当化する言説の分析を中心に—	白石 壮一郎	京都大学大学院アジア・アフリ カ地域研究研究科アフリカ地域 研究専攻博士課程
16:20 16:40	A-17	ケニアの女性と土地相続—「緊急収容村」跡地を中心として—	松岡 陽子	名古屋大学大学院/日本学術 振興会特別研究員
16:45 17:05	A-18	「文化遺産」の「保護」と「発見された場所」—トルコにおける古美術品の不法取引問題を事例に—	田中 英資	University of Cambridge
17:10 17:30	A-19	駆け落ちか家族の承認か—トルコ絨毯生産地の婚姻とモノの相関—	田村 うらら	京都大学大学院人間・環境学 研究科共生文明学専攻博士後 期課程
17:35 17:55	A-20	トルコ・イスタンブルにおける宗教舞踊セマーの展開	米山 知子	総合研究大学院大学文化科学 研究科

# 第1日目 6月2日(土) B会場 工学部 IB館 012号室

8:30		発表登録受付	
9:00 9:20	B-1	近代中国留学生の日本観念と自我観念の形成について	楊 羽 南山大学大学院文学研究科
9:25 9:45	B-2	師弟関係からみた現代中国の伝統演劇教育—徒弟制をキーワードとして—	清水 拓野 東京大学大学院
9:50 10:10	B-3	越境する記憶—中・日・米の記念館・博物館における南京大虐殺—	田川 泉 Indiana University-Purdue University Indianapolis非常勤講師
10:15 10:35	B-4	「民間文化」に対する意識の変容—花児と花児会に対する個々人の思い—	徐 素娟 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程
10:40 11:00	B-5	信仰をめぐる重層的記憶と過去の再構築—中国陝西省関中平原カトリック村を中心に—	李 雯文 京都大学
11:05 11:25	B-6	新中国成立後の水上人をめぐる解釈の変容—広東省中山市の事例—	長沼 さやか 総合研究大学院大学文化科学研究科
11:30 11:50	B-7	中国黄海島嶼の漁業と家族生活—長山諸島の事例を中心に—	緒方 宏海 東京大学大学院/日本学術振興会特別研究員
11:55 12:15	B-8	「漢化」=「非チベット化」か?—山岳信仰の実践に見るチベット族と漢民族の関係—	別所 裕介 広島大学大学院国際協力研究科・教育文化コース博士課程後期

## 12:15-13:00 昼食

13:00 13:20	B-9	中国江南地域における「水郷古鎮」像の創造—水郷紹興安昌鎮の文化の取捨選択から—	陳 志勤 日本学術振興会
13:25 13:45	B-10	集落地形の風水判断—西南中国、トン族の村落風水の事例から—	兼重 努 滋賀医科大学
13:50 14:10	B-11	中国・西双版纳タイ族における男性産婆—出産の「医療化」の中で—	磯部 美里 愛知大学大学院博士課程
14:15 14:35	B-12	「山官」と寨神儀礼—中国におけるジンポー族の社会史と文化状況—	松岡 格 東京大学大学院総合文化研究科
14:40 15:00	B-13	雲南省西北部における少数民族のすみわけモデル—生業形態を中心に—	田畑 久夫 金丸 良子 昭和女子大学 麗澤大学
15:05 15:25	B-14	文化のジャンル生成の力学—雲南省徳宏州における観光と「宗教文化」—	長谷 千代子 総合地球環境学研究所
15:30 15:50	B-15	進化する観光表象—中国雲南省元陽棚田地域を例として—	孫 潔 東北大学院環境科学研究科博士課程
15:55 16:15	B-16	中国雲南省ナシ族における出自の記憶と忘却—迪慶チベット族自治州東南部のナシ族を事例として—	岡 晋 総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程
16:20 16:40	B-17	台湾植民統治における原住民協力者の育成—タイヤル族を例として—	宋 秀環 台湾龍華科技大学助教授
16:45 17:05	B-18	台湾・ブヌン族の現代的土地制度	石垣 直 日本学術振興会特別研究員 PD/横浜国立大学
17:10 17:30	B-19	台湾植民地統治期の訃聞—主として親族研究の視点から—	上水流 久彦 県立広島大学
17:35 17:55	B-20	国際結婚にみる男性性の表現—台湾・客家人居住地、東勢鎮の事例から—	横田 祥子 東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程

第1日目 6月2日(土) C会場 工学部 IB館 013号室

8:30 発表登録受付

9:00 9:20	C-1	ディネにおける母系制の現状—結婚式を中心に—	天野 圭子	愛知県立大学大学院国際文化研究科博士後期過程
9:25 9:45	C-2	カナダ北西海岸先住民族の社会変容による文化変容—ハイダ族、ハイスラ族、ツミシヤン族、ギットクサン族—	齊藤 和枝	関西外国語大学
9:50 10:10	C-3	アラスカ先住民イヌピアックの捕鯨と獲物の分配・流通についての予備的考察	岸上 伸啓	国立民族学博物館・総合研究大学院大学
10:15 10:35	C-4	文化の断続—HopiとMarajóの土器づくり—	古谷 嘉章	九州大学
10:40 11:00	C-5	アンデスのラクダ科動物の利用をめぐる諸問題—インカ伝統の追い込み猟「チャク」の復活を中心に—	稲村 哲也	愛知県立大学
11:05 11:25	C-6	日本国内におけるアメリカ先住民ホピ・イメージの流通状況—美術工芸品の商品説明文に見られるスピリチュリティ的表象について—	伊藤 敦規	東京都立大学大学院
11:30 11:50	C-7	ヒエラルキー、ヘテラルキー、イデオロギー—先史アンデス・ティワナク遺跡の盛衰をめぐる—	佐藤 吉文	総合研究大学院大学
11:55 12:15	C-8	嫉妬する目—ブラジル都市部における邪視信仰と社会格差—	奥田 若菜	大阪大学大学院

12:15-13:00 昼食

13:00 13:20	C-9	上座仏教における積徳と功德の転送—北タイ「旧暦12月満月日」の儀礼—	西本 陽一	金沢大学文学部
13:25 13:45	C-10	寺院は誰のものか?—現代タイにおける寺院所有地の利用をめぐる—	岡部 真由美	総合研究大学院大学
13:50 14:10	C-11	サラパン仏教讃歌—東北タイ農村における女性の宗教実践と社会変容—	加藤 真理子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
14:15 14:35	C-12	アッラーか精霊か—タイ南部インド洋津波被災地における宗教実践の変動—	小河 久志	総合研究大学院大学
14:40 15:00	C-13	北部タイの民間治療師モー・ムアンと患者の関係—報酬の概念を中心に—	古谷 伸子	大谷大学大学院
15:05 15:25	C-14	北タイ、チェンマイの精霊崇拜の多元性—共同体形成の諸局面—	福浦 一男	立命館大学非常勤講師
15:30 15:50	C-15	東北タイ農村におけるクルム・メー・バーンの意義—ラオ系タイ人女性の労働と自己の再定義を通して—	木曾 恵子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
15:55 16:15	C-16	北部タイにおけるHIV/AIDS感染者グループに見る相互扶助意識の生成と変容	日野 智豪	上智大学
16:20 16:40	C-17	タイ農村女性グループの類型・目的・意義	江藤 双恵	獨協大学・非常勤講師
16:45 17:05	C-18	タイ国境における雲南人移民と「華人」への政治過程—国家と国籍のはざままで—	王 柳蘭	京都大学大学院
17:10 17:30	C-19	観光仲介者における「ホスト側仲介者」と「ゲスト側仲介者」の役割—タイ・バンコクの観光仲介者の事例から—	アナンタナコム パニダ	金沢大学大学院
17:35 17:55	C-20	土器生産地の展開と生産の技法について—タイ東北部における事例から—	中村 真里絵	総合研究大学院大学

# 第1日目 6月2日(土) D会場 工学部 IB館 014号室

## 8:30 発表登録受付

9:00 9:20	D-1	マオリ新年祭の復興にみる「マタリキ」概念の解釈	宮里 孝生	愛知県立大学大学院国際文化研究科博士後期課程
9:25 9:45	D-2	都市における所在の確保—ニューージーランド・マオリの祭祀・集会場マラエの比較検討—	深山 直子	東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻博士課程
9:50 10:10	D-3	ニューカレドニア独立運動にみるカナクの土地回復闘争—土着性のパラダイムとカナク・ナショナリズムの戦略としての土地返還要求	江戸 淳子	杏林大学
10:15 10:35	D-4	近代化と屋敷地の変容—ミクロネシア・パラオ社会の事例—	飯高 伸五	東京都立大学大学院社会科学研究科
10:40 11:00	D-5	マフとラエラエ—仏領ポリネシアの性の多様性について—	桑原 牧子	金城学院大学
11:05 11:25	D-6	「伝統を知らない」老人たち—ヴァヌアツ・アネイチム社会における高齢者の地位と近代化—	福井 栄二郎	日本学術振興会特別研究員/国立民族学博物館
11:30 11:50	D-7	移住者たちの住民意識と地方政府の公共政策—マーシャル諸島イバイ島の事例から—	黒崎 岳大	早稲田大学大学院
11:55 12:15	D-8	ミクロネシア・ヤップ離島出身者の民族的名乗り	柄木田 康之	宇都宮大学

## 12:15-13:00 昼食

13:00 13:20	D-9	コミュニティ・ケアの時代—サモアにおけるコミュニティ・サービスの展開を中心として—	倉田 誠	神戸大学大学院
13:25 13:45	D-10	白人・ネイティブ・ハーフの歴史人類学I—ドイツ植民地統治下サモアの人口政策—	山本 真鳥	法政大学経済学部
13:50 14:10	D-11	貝貨の払い方と法定通貨の払い方—パプアニューギニア・ア・トーライ社会におけるモノの売買の事例から—	深田 淳太郎	一橋大学大学院
14:15 14:35	D-12	社会変化と家族—パプアニューギニア、東セビック州N村の事例から—	新本 万里子	広島大学大学院社会科学研究所
14:40 15:00	D-13	パプアニューギニア、アンガティヤヤにおける喜びの歌、悲しみの歌—土地と感情表現—	吉田 匡興	
15:05 15:25	D-14	人口移動における「場所」と歴史認識—パプアニューギニア、テワダの集団移住の事例から—	田所 聖志	立正大学
15:30 15:50	D-15	経済の開発と文化的価値の開発—フィジー・ヴィティレヴ島東部ダク村落開発事業の事例から—	丹羽 典生	日本学術振興会特別研究員PD (法政大学)
15:55 16:15	D-16	ソロモン諸島における州的アイデンティティと「開発的公圏」	関根 久雄	筑波大学
16:20 16:40	D-17	近代の視座とマルチカルチュラル・オリエンタリズム—ポストコロニアル理論をめぐる新たな展開のために—	前川 真裕子	神戸大学国際文化学研究所
16:45 17:05	D-18	シリア正教会教徒の社会適応と新アイデンティティの形成	佐藤 紀子	Pukyong National University 釜慶大学校
17:10 17:30	D-19	「アボリ人」参上—日本におけるオーストラリア先住民研究100年のフラッシュ・バック—	飯嶋 秀治	熊本学園大学非常勤講師
17:35 17:55	D-20	「ネイティブ」をめぐる人類学—先住ハワイアンと沖縄系移民の実践から—	城田 愛	大分県立芸術文化短期大学

# 第1日目 6月2日(土) E会場 工学部 IB館 015号室

## 8:30 発表登録受付

9:00 9:20	E-1	言えない理由・言わない理由—ベトナム北部社会における新宗教集団の宗教実践—	佐藤 まり子	総合研究大学院大学
9:25 9:45	E-2	ベトナム・ラドン省に居住する異民族間の通婚関係—父系原理と母系原理の共存—	本多 守	東洋大学大学院社会学研究科 社会学専攻博士後期課程
9:50 10:10	E-3	南ラオス・国道23号線沿いの村の社会経済的变化のプロセス—植民地と開発と村落内社会分化—	中田 友子	南山大学人類学研究所
10:15 10:35	E-4	手織り布の生産・販売にみる市場経済接合の現状—南ラオス・アプターとサヴァナケット、二つの事例より—	藤澤 冬詩	大阪大学大学院人間科学研究科
10:40 11:00	E-5	生命倫理の人類学的転回、医療人類学の生命倫理的転回—ラオス低地農村部における死のプロセスを事例に—	岩佐 光広	千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程
11:05 11:25	E-6	北ラオス村落社会における土地保有と「家」の生成	吉田 香世子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科
11:30 11:50	E-7	在カンボジア・ベトナム人の生活における祖先祭祀—Prey Veng州Peam Chor郡B村の事例から—	松井 生子	広島大学大学院社会科学研究科国際社会論専攻博士後期課程
11:55 12:15	E-8	カンボジアにおける消費社会の到来と伝統染織の興隆—高級絹緋「ホール」を中心に—	朝日 由美子	上智大学大学院

## 12:15-13:00 昼食

13:00 13:20	E-9	ロンバ・ブレガンジュール—創作ブレガンジュールをめぐる権力と名誉のかけひき—	伏木 香織	東京藝術大学(非常勤)
13:25 13:45	E-10	バリ島爆弾テロ事件をめぐる「バリ文化」の表象—事件後の「追悼式典」の事例から—	山本 早良紗	立教大学大学院文学研究科
13:50 14:10	E-11	慣習村における豊穰儀礼をめぐる—インドネシア・バリ南部の事例から—	岩部 俊美	日本文化人類学会会員
14:15 14:35	E-12	通婚とエスニシティ—インドネシア・ランブン州プビアン人社会の事例から—	金子 正徳	国立民族学博物館機関研究員
14:40 15:00	E-13	西スマトラ州の共有地返還闘争における対立の構図—国家とローカルコミュニティ間の利害と言説の相克—	中島 成久	法政大学国際文化学部
15:05 15:25	E-14	和解の「不在」とADR(裁判外紛争処理)論の受容—インドネシア・メダン市の地方裁判所における国家法と慣習法—	高野 さやか	東京大学大学院総合文化研究科
15:30 15:50	E-15	味の表現と評価—インドネシア・スダラの食文化に関する言語人類学的研究—	阿良田 麻里子	国立民族学博物館外来研究員
15:55 16:15	E-16	「護り」の技法に関する映像人類学的研究—インドネシア・ミナンカバウの事例から—	村尾 静二	総合研究大学院大学文化科学研究科
16:20 16:40	E-17	農民と廃品回収業—東インドネシア、ティモール島の「アナ・ポトル」—	森田 良成	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程/日本学術振興会特別研究員
16:45 17:05	E-18	カレンダーのある風景に文化事象を探る—インドネシア、ベトナム、日本国内の資料をもとにして—	大越 公平	関東学院大学
17:10 17:30	E-19	バングラデシュのある聖者廟における開発と人類学	外川 昌彦	広島大学大学院国際協力研究科
17:35 17:55	E-20	「子ども域」にみられる社会規範の構築—バングラデシュ農村社会の子どもを事例に—	南出 和余	総合研究大学院大学文化科学研究科

**第1日目 6月2日(土) F会場 工学部 IB館 IB大講義室**

<b>8:30</b>	<b>発表登録受付</b>
-------------	---------------

9:00 【分科会】映像人類学上映会  
12:15 【代表者】大森 康宏(国立民族学博物館)

<b>12:15-13:00</b>	<b>昼食</b>
--------------------	-----------

13:00 【分科会】映像人類学上映会  
17:55 【代表者】大森 康宏(国立民族学博物館)

**第1日目 6月2日(土) G会場 工学部 2号館 221号室**

**8:30 発表登録受付**

9:00	【分科会】 近代的規範からはみだす身体／自己		
11:00	【代表者】 浮ヶ谷 幸代(立教大学非常勤講師)		
G-1	モノの医療人類学序説—糖尿病患者のインスリン自己注射器を事例として—	濱 雄亮	慶應義塾大学大学院・日本学術振興会
G-2	関係の中で馴染む身体—美容整形の事例から—	川添 裕子	松蔭大学非常勤講師
G-3	臓器の医療／経済人類学	山崎 吾郎	日本学術振興会
G-4	科学的数値をめぐる身体性と共同性—糖尿病患者の身体を介した協同的実践の事例から—	浮ヶ谷 幸代	立教大学非常勤講師
G-5	自己への配慮—フーコー「主体の解釈学」を読む—	出口 顕	島根大学
11:05	G-6 土佐茶の推移とその現状	蕭 紅燕	高知大学人文学部
11:25			
11:30	G-7 現代日本の江戸祭囃子—伝統音楽芸能としての伝承と演奏の文脈の多様化—	青柳 孝洋	岐阜大学
11:50			
11:55	G-8 天皇家のおくりもの—外交贈答台帳の分析—	田中 雅一	京都大学人文科学研究所
12:15			

**12:15-13:00 昼食**

13:00	G-9 竹島＝独島、徳之嶋、知床、屋久、苜/竹、任那、耽羅(トムラ)の語源と南島語族(AN)の韓南進出	郭 安三	沖縄文化協会(元東京富士大)
13:20			
13:25	G-10 風俗嬢の〈自発性〉再考—応用人類学的HIV/AIDS研究に向けて	熊田 陽子	東京都立大学大学院社会科学研究所
13:45			
13:50	G-11 アジアの日系企業におけるHIV/AIDS対策に関する医療政策研究	道信 良子	札幌医科大学保健医療学部
14:10			
14:15	G-12 東・南アジアにおけるリプロダクションの変容	松岡 悦子	旭川医科大学
14:35			
14:40	G-13 医師のプロフェッショナリズムとは何か—変容する医学教育の現在—	星野 晋	山口大学大学院医学系研究科
15:00			
15:05	G-14 国立ハンセン病療養所における「子ども」	山本 須美子	東洋大学
15:25		加藤 尚子	国際医療福祉大学
15:30	G-15 アトピー性皮膚炎をめぐる病いの語り	牛山 美穂	早稲田大学大学院文学研究科
15:50			
15:55	G-16 病いの「受容」から共生への道筋 —ハンセン病を生きるという実践から—	小杉 真智子	北海道大学
16:15			
16:20	G-17 看護師になるということ—語りからみえてくる看護師の文化化のプロセス—	工藤 由美	千葉大学大学院文学研究科修士課程
16:40			
16:45	G-18 生活保護ケースワーカーの仕事 —社会福祉分野と人類学の関係—	常数 英昭	早稲田大学文化構想学部非常勤講師
17:05			
17:10	G-19 精神障害者福祉施設における当事者たちのコミュニケーションをめぐる一考察—日本における2つの代表的な精神障害者福祉施設の事例から—	間宮 郁子	木更津高専
17:30			
17:35	G-20 『峠の茶屋』としての保健室—学校保健室に生じる場の機能と実践について—	田口 亜紗	成城大学民俗学研究所
17:55			

**第1日目 6月2日(土) H会場 工学部 2号館 222号室**

**8:30 発表登録受付**

9:00	【分科会】 社会的弱者と観光			
11:00	【代表者】 江口 信清(立命館大学)			
H-1	観光化に係わる女性の地位の変化と外部支援—ガイアナのアラワク人の事例—	江口 信清	立命館大学	
H-2	「見せる」少数民族・「見られる」少数民族—北タイ山地民と観光の事例から—	石井 香世子	名古屋商科大学	
H-3	インド社会の変化と宗教的芸能集団の適応戦略	村瀬 智	大手前大学	
H-4	観光都市の発展と貧困地域母親会の経済的自立運動—ポカラ市の貧困女性によるマイクロファイナンス・プロジェクトの功罪—	山本 勇次	大阪国際大学	
H-5	行政による観光開発と貧困層への影響—フィリピンの「ルーラル・ツーリズムのための企業家創出プログラム」に関する評価—	四本 幸夫	立命館大学	
11:05 11:25	H-6 首都圏におけるアイヌ民族の文化・社会運動の日常性	関口 由彦	成城大学民俗学研究所	
11:30 11:50	H-7 東アジアにおける闘牛をめぐる社会的ネットワークの形成—周辺=周辺ネットワーク試論—	尾崎 孝宏	鹿児島大学法文学部	
11:55 12:15	H-8 素材・形態・信仰—小祠信仰にみる持続と変化—	角南 聡一郎	(財)元興寺文化財研究所	

**12:15-13:00 昼食**

13:00 13:20	H-9 中国内モンゴル自治区オルドス地方における「白いスウルデ」祭祀とその復活について	ソロンガ	愛知県立大学大学院博士後期課程	
13:25 13:45	H-10 中国内陸河川黒河下流域エゼネー旗における自然環境の変化—牧畜民の認識から—	児玉 香菜子	日本学術振興会/国立民族学博物館	
13:50 14:10	H-11 「過放牧」と砂漠化—内モンゴル、ホルチン砂地周辺地域の予備調査から—	ナラン	東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程	
14:15 14:35	H-12 モンゴル国における牧地利用と紛争処理—「コミュニティを基盤にした牧地管理」批判—	上村 明	東京外国語大学	
14:40 15:00	H-13 モンゴル遊牧民の季節的移動—モンゴル国ヘンティール県ムルン郡の事例—	辛嶋 博善	東京外国語大学大学院	
15:05 15:25	H-14 モンゴル ウランバートルにおける消費者の物資調達に関する指向	高原 浩子	京都大学大学院人間・環境学研究科	
15:30 15:50	H-15 現代モンゴルの家庭における父・夫の「威信の低下」—社会の構造的変化による父の「威信維持装置」の喪失—	田中 華子	名古屋大学大学院法学研究科	
15:55 16:15	H-16 トゥバにおける自然の内面化と民俗文化資本の生成—ホームメイの事例から—	諏訪 淳一郎	弘前大学国際交流センター	
16:20 16:40	H-17 ポスト社会主義モンゴルにおける遊牧社会と都市の動	石井 祥子	名古屋大学大学院	
16:45 17:05	H-18 ポスト社会主義国家におけるエスニック関係の動態—モンゴル国西部のカザフ人社会をめぐって—	スヘー・バートルガ	愛知県立大学(客員共同研究員)	
17:10 17:30	H-19 ポスト・ソビエト期における土地利用権と「祖先の土地」—カザフスタン北部農村の事例から—	藤本 透子	日本学術振興会・京都大学大学院 東京都立大学大学院社会科学 研究科・社会人類学専攻博士 課程	
17:35 17:55	H-20 親族を雇用する—経済移行期におけるウズベキスタンの刺繍製作を事例として—	今堀 恵美		

**第1日目 6月2日(土) [会場 工学部 2号館 231号室]**

**8:30 発表登録受付**

9:00	【分科会】 男性運動と男性性研究への学際的アプローチ—現状と課題—		
11:00	【代表者】 沼崎 一郎(東北大学)		
I-1	男性が心豊かに生きる環境をめざして—男性運動15年 中村 彰 の実践事例から—	メンズセンター	
I-2	男性研究・歴史・政治—争点としての男性性・男性像— 細谷 実	関東学院大学	
I-3	男性性の理論と人類学—「奇妙な男」の記述を超えられるか? 沼崎 一郎	東北大学	
I-4	男性性の理論と社会学—規範、実態、神話— 北仲 千里	広島大学	
I-5	日本の男性性研究&運動の課題とは何か—フェミニズム・スタディーズの立場から— 海妻 径子	岩手大学	
11:05	I-6 グローバル企業と越境労働—D航空日本人客室乗務員の仕事の人類学— 八巻 恵子	総合研究大学院大学	
11:25	11:30 I-7 仕事の「意味」をつくる職場集団—東京・銀座のホステス スクラブに従事する女性を事例に— 松田 さおり	宇都宮共和大学	
11:50	11:55 I-8 現代日本の書道—展覧会活動にみる書道界の制度と力学— 大野 加奈子	金城大学短期大学部	
12:15			

**12:15-13:00 昼食**

13:00	【分科会】 狩猟採集民の生業文化の変容		
15:00	【代表者】 池谷 和信(国立民族学博物館)		
I-9	アイヌの生業をめぐる変わりゆく論議—経済から政治に— 手塚 薫	北海道開拓記念館	
I-10	イノシシ猟をめぐる肉の経済性と分配—市場経済下におけるボルネオ・シハン社会の狩猟活動より— 加藤 裕美	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	
I-11	インドネシア・プナンの複合的生業と分配—農耕、採集、狩猟に注目して— 小泉 都	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	
I-12	自然保護と狩猟採集民の野生動物利用—カメルーン南部熱帯雨林におけるバカ・ピグミーの事例— 服部 志帆	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	
I-13	自然保護区と狩猟採集民—カラハリ先住民の新たな生業— 池谷 和信	国立民族学博物館	
15:05	【分科会】 民族の名称・呼称はだれが決めるのか		
17:30	【代表者】 宮治 美江子(東京国際大学人間社会学部)		
I-14	アマジグカベルベルか—民族の名称・呼称の政治性をめぐって— 宮治 美江子	東京国際大学人間社会学部	
I-15	<藪の人>とはだれのことか—南部アフリカ狩猟採集民の他称と自称— 菅原 和孝	京都大学大学院人間・環境学研究科	
I-16	一筋縄ではいかない「エスキモー」—「イヌイト」を事例に<正しい>民族名称・呼称を考える— スチュアートヘンリ	放送大学	
I-17	国際政治的文脈で定着する民族名称—北欧の先住民民族サミーの事例から— 葛野 浩昭	立教大学観光学部交流文化研究科	
I-18	「政治的に正しい」民族名称?—オーストラリアの事例から— 窪田 幸子	広島大学大学院総合科学研究科	
I-19	「ベルベルからアマジグへ」は妥当か—モロッコにおける「ベルベル」の新しい名称をめぐる— 堀内 正樹	成蹊大学文学部	

# 第1日目 6月2日(土) J会場 工学部 2号館 232号室

## 8:30 発表登録受付

9:00	【分科会】 開発援助プロジェクトと民族誌的調査	「日本文化人類学会・国立民族学博物館連携事業「国際協力のための実践人類学ワークショップ」第1回ワークショップ主催・実践人類学連携事業実行委員会」	
11:00	【代表者】 鈴木 紀(千葉大学)		
J-1	開発プロジェクトと民族誌的調査—開発分野における実践人類学の成果と課題—	鈴木 紀 千葉大学	
J-2	プロジェクト・エスノグラフィーの可能性—プロジェクトの「ための」社会調査としての民族誌—	佐藤 寛 アジア経済研究所	
J-3	プロセスとしての地域開発—開発実践における「プロセスの記述」の課題と可能性—	荒木 美奈子 お茶の水女子大学	
J-4	フィールドワーク、民族誌の性質と開発実務への応用性	菅原 鈴香 フリーランス・コンサルタント	
J-5	農村開発の民族誌—フィールドワークという介入—	小國 和子 日本福祉大学	
11:05	J-6	ネイティブ研究者のソリューション型活動実践—近代産業遺産保存活用における「わたし」の経験より—	永吉 守 久留米高専・福岡工大非常勤講師
11:25	J-7	好況時における「歓喜」と「苦悩」のカンパニーグラフィー—2004年、鉄鋼マーケット好転下の鉄鋼流通業の事例から—	中畑 充弘 明治大学大学院/民博共同利用研究員
11:30	J-8		
11:50	J-8		
11:55	J-8		
12:15	J-8		

## 12:15-13:00 昼食

13:00	【分科会】 人類学的リスク研究の開拓	
15:25	【代表者】 市野澤潤平(東京大学大学院総合文化研究科博士課程)	
J-9	人類学的リスク研究の開拓に向けて—分科会イントロダクション—	市野澤 潤平 東京大学大学院総合文化研究科博士課程
J-10	リスクと都市空間の管理	木村 周平 東京大学大学院/日本学術振興会研究員
J-11	リスク社会における肥満問題—アメリカ合衆国を事例に—	碓 陽子 東京大学大学院/日本学術振興会研究員
J-12	生殖医療技術をめぐる意味の「非」過剰さ—インド・ブネーの医師集団の語りからみるリスク化とリスク認識—	松尾 瑞穂 総合研究大学院大学/日本学術振興会研究員
J-13	「西洋」はリスクか?—ヴァヌアツ・アネイチュム島における観光をめぐる—	福井 栄二郎 日本学術振興会研究員/国立民族学博物館
J-14	リスクとしての不幸、またはリスクという不幸—災いについての人類学的な物語の可能性—	東 賢太郎 宮崎公立大学
15:30	【分科会】 East Asia in Motion: A Comparative Perspective to Transnational Migration	
17:55	【代表者】 Shinji Yamashita(University of Tokyo)	
J-15	Introduction: East Asia in Motion in an Age of the Transnational	Shinji Yamashita University of Tokyo
J-16	Asians on the Move in the Asia Pacific: Emerging Trends in the 21st Century	Jerry Eades Ritsumeikan Asia Pacific University
J-17	Increasing International Marriages in East Asia: Japan, South Korea and Taiwan	Keiko Yamanaka University of California, Berkeley
J-18	Ethnic Schools in Transition in "Multiethnic Japan": A Case of Chinese Schools	Chen Tien-shi National Museum of Ethnology
J-19	Paradise in Dream or in Real?: Japanese Retirees Migrating to Southeast Asia	Hiromu Shimizu Kyoto University
J-20	Transnational Migration in East Asia: A Comparative Perspective	David W. Haines George Mason University